

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778前兆各極大と最近迄の前兆終息の関係から

2013年12月13日極大→2015年03月03日終息→8月 3日±
2014年02月27日極大→2015年03月20日終息→7月 31日±
2014年04月24日極大→2015年04月03日終息→7月 30日±
2014年06月07日極大→2015年04月14日終息→7月 30日±
(Tmap: Tpp=3.9:1 経験則使用) 「8月1日±2を支持」

FAX 及び Mail で配信しております「実験観測情報・公開実験」は2~3日毎に情報を配信し、No.1778関連前兆についても随時報告していましたが、PHP 新書読者の皆様へのホームページ(本HP)の更新が大変遅くなりましたことを深くお詫び申し上げます。最終更新情報「No.081~084」で報告のとおり、No.1778前兆とNo.2443前兆は同一認識となり、また発生推定時期は、早い場合でも7月31日±3と報告致しました。これが正しいか否か終息変化を観ていました。

※詳しくはNo.081~084を参照下さい

現在のNo.1778の継続前兆の出現状況は右上図のとおりで、継続前兆としては4基の観測装置のみにまで減少し、しかも顕著前兆ではなく、正常基線を時折記録する等、前兆レベルは明らかに減少してきています。各前兆の終息認識とNo.1778前兆の極大との関係を、現在の認識で対応させますと、上記のとおり、8月1日±2を示し、最終号で検討した早い場合の推定発生時期7月31日±3を支持する結果となっています。残る明確な極大は、2014年8月18日と2015年1月22日のふたつです。仮に8月1日±2時期に発生と云う認識が正しい場合には、この二つの極大に対する前兆終息は、以下が計算できます。

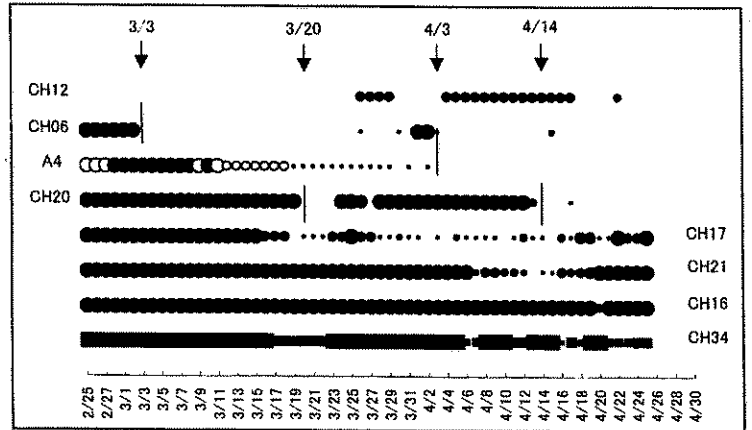
- 2014年08月18日極大=05月03日±頃終息の可能性
- 2015年01月22日極大=06月13日±頃終息の可能性

最終的には、6月13日±頃まで、全前兆が完全静穏化しなくても問題は無い状況ですが、本年1月22日が最終極大である場合には、全前兆は6月中旬までには終息する可能性が計算されることとなります。これが確認できないと、現在の認識と推定が正しいか否か判断できません。今後の変化を鑑み、また続報させて戴きます。

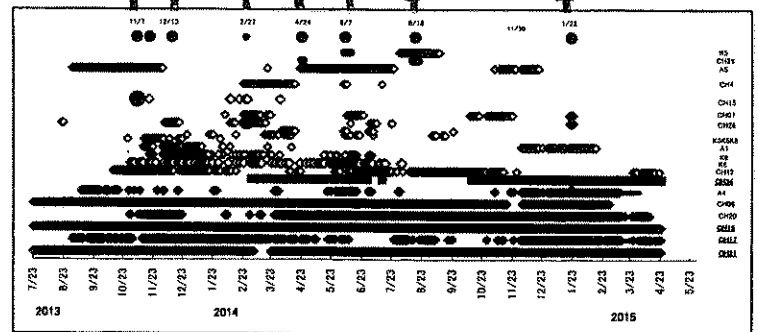
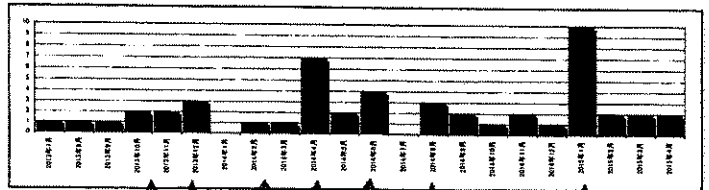
~以下はあくまでも参考です~

No.1778前兆からは近畿圏と東北圏の可能性が示唆されますが、近畿圏の可能性の方が考え易い状況です。その近畿圏で昨年頃から有感地震が多い様で、特に大阪府~京都府~滋賀県の領域で、通常月に1~2度程度の発生が、昨年4月=7回、本年1月=10回と、月に10回も震度1~3の有感地震が発生しています。この領域の有感地震数の多い時期とNo.1778前兆の極大認識時期がある程度合っている様に思え、比較してみた図が右上図です。右上図の下No.1778前兆極大と右上図の上棒グラフ大阪府~京都府~滋賀県領域の浅い地殻地震発生数との相関が認められる様に見えます。昨年9/27の御嶽山噴火の前、9/9,9/11に顕著な噴火前兆が観測されましたが、9/10~11に御嶽山で火山性地震が急増したことが気象庁で観測されました。火山前兆と地震前兆は全く異なりますので、同一視はできませんが、震源断層形成過程で生じる微小破壊の際、前兆が観測される仮説が正しい場合、震源が浅い場合は、断層形成過程の微小破壊が、ある程度有感地震となっている可能性も否定できないとも考えられます。右上図のNo.1778前兆極大と相関が認められる近畿圏の有感小規模は、右図左側の精円付近の小規模地震発生数です。勿論、全くの偶然である可能性もありますので、無関係である可能性も有、あくまでも参考です。

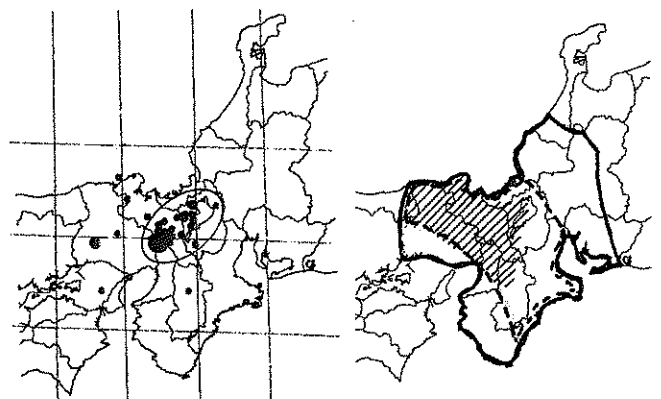
C) Copyright 2015 YSBO 八ヶ岳南麓天文台



最近のNo.1778前兆の出現状況図



No.1778前兆 2013~現在の出現状況 最上部・↑印=極大認識
上棒グラフ=大阪府~京都府~滋賀領域の有感地震発生数



2014.4~2015.4期間の近畿圏での浅い地殻地震(定常的活動のある福井・和歌山~紀伊水道並びにM6.3余震のある淡路島地震を除く)大阪府北部~京都府南部~滋賀県領域の概ね精円付近の地震が多い。

No.1778前兆 近畿圏の場合の推定領域 太線内=大枠推定領域 点線内=可能性考え易い 斜線域=参考推定領域

(震源情報=気象庁発表暫定値を使用)